



## 新病棟開院のお知らせ

病院長 武田 正之



師走の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のことと心よりお喜び申し上げます。日頃より、山梨大学医学部附属病院の活動へのご協力と格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、当院では最新の医療に対応する設備整備や県内唯一の特定機能病院としての急性期医療の充実・先進医療への取り組みを加速させるため、病院再整備事業を進めております。

平成27年12月には、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ®」専用手術室、超低侵襲心臓弁置換術「TAVI」を実施できるハイブリッド手術室、国立大学唯一の可動式3テスラMRI設置の脳神経外科用手術室、高難度脊椎外科手術専用のナビゲーションシステムである「O-arm®」を設置した脊椎外科用手術室、ヘリポートなどを装備する新病棟第Ⅰ期棟が開院しました。その後の再整備計画のなかで、今年9月、新病棟Ⅱ期棟が開院となり、現時点では国立大学附属病院のなかで最新鋭の医療施設となっております。新病棟の建物構造は鉄骨造(免震構造)7階建て、延べ床面積13,548.62平方メートルであり、病院全体618床のうち250床を収容します。

入退院支援業務を拡充し患者さんへのサービスを向上するために、1階には入退院支援センターを配置しました。また、同じ1階には物流センター、感染症対応の最新鋭の病理解剖室、洗濯室等が整備されています。

2～7階は病棟階で、2階は婦人科とRI病室を含む放射線科、循環器・呼吸器内科疾患用病棟です。

3階は精神科病棟で、特別室を14床整備しました。  
4階は小児科病棟で、院内学級やプレイルームを整備しました。  
5階は腎疾患、糖尿病、内分泌疾患、膠原病、神経内科および歯科口腔外科疾患の病棟であり、腎不全患者さんに対する血液透析可能な個室を2室配置しました。

6階は頭頸部・耳鼻咽喉科、皮膚科、形成外科の病棟、7階は血液内科疾患、緩和ケア、消化器内科の病棟です。7階には血液疾患専用の看護機能を備えた無菌エリアや室内動線に配慮した緩和病室に加えて、4床室程度の広さの特別室を整備しました。当院の特別室の中で、初めてバスとトイレを分けて浴槽を整備し、また、前室にはミニキッチンも設置しました。

現在、中央診療棟の改修工事中で、今後は旧東病棟の取り壊し、第Ⅲ期工事、その後外来棟工事の予定です。

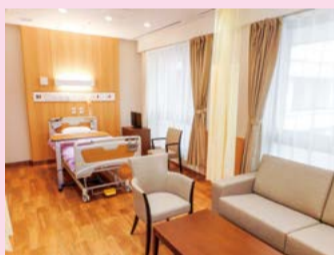
当院の理念である「一人ひとりが満足できる病院」とともに「理想の大学病院」を目指した挑戦を続けますので、今後ともよろしくお願いたします。



新病棟Ⅱ期棟外観(南から)



入退院支援センター



特別室



院内学級(小学校)

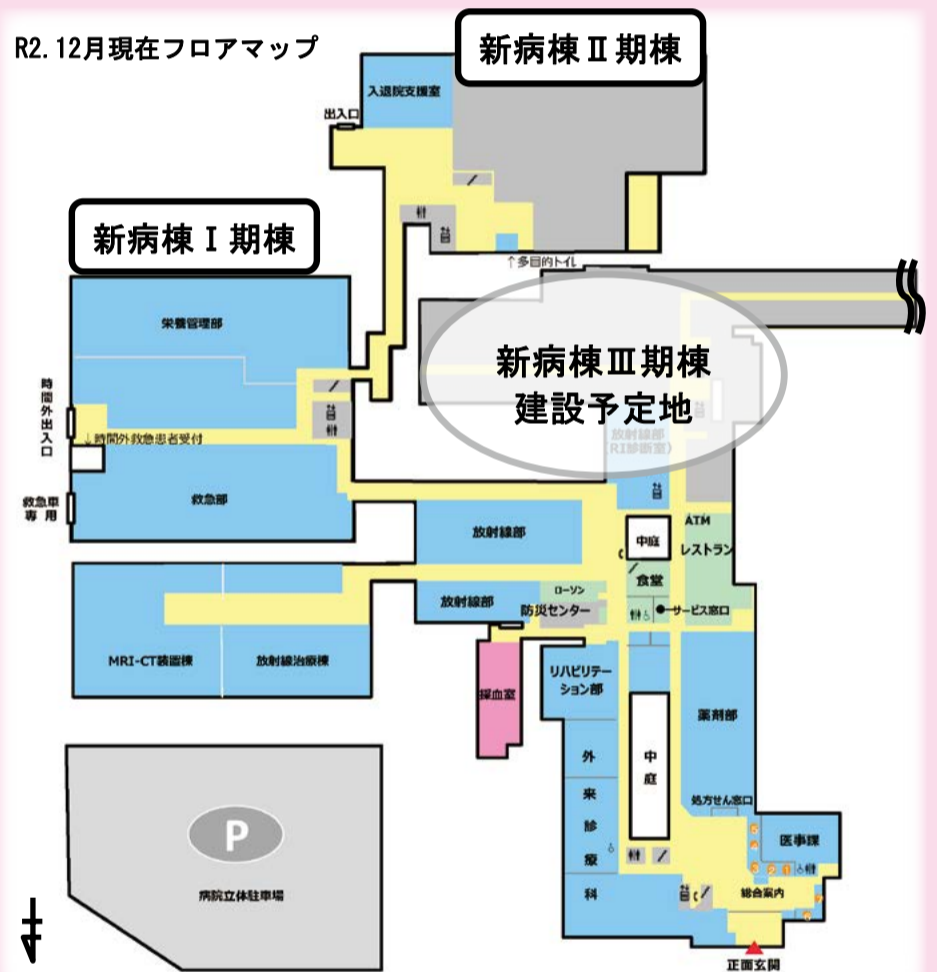


プレイルーム



特別室(バスルーム)

R2. 12月現在フロアマップ



## 総合患者支援部のご案内：「よろず相談」を承ります

総合患者支援部

大学病院を受診されている患者さんやご家族の皆様は、病気の治療以外にもさまざまな不安やご苦労があることと存じます。皆様を担当する医療スタッフはそれぞれの分野で最善を尽くしておりますが、「これは誰に相談したら良いのだろう」「これはどこが担当しているのだろう」といった状況に患者さんやご家族はもちろん、スタッフも遭遇することがあります。このような病気の治療そのもの以外の医療福祉や相談、あるいは入院前後の療養のサポートを担当する部署として、このたび、医療福祉支援センター、入退院支援センター、がん相談支援センターの3つのセンターからなる「総合患者支援部」ができました。

病院玄関ホールの「医療福祉支援センター」では、さまざまな医療福祉支援制度の利用を全面的にお手伝いいたします。

また、新病棟1階には「入退院支援センター」が新しくオープンしました。こちらでは入院される患者さんの入院前の準備と退院後の療養が円滑に進むように、要となって皆様をサポートいたします。

さらに「がん相談支援センター」は、人生の一大事である「がん」の療養では、治療以外にも生活のこと、仕事のことなどさまざまなことが心配にな

られます。外来や病棟の専門スタッフは治療そのものに全力を尽くしますが、それ以外の心配ごとはがん相談支援センターにお声がけください。皆様と一緒に取り組みます。

総合患者支援部は「よろず相談」担当です。治療以外のあらゆる心配ごとを承り、患者さんやご家族の皆様が「安心」して病気の治療に取り組めますように全力で支援いたしますので、どうかお気軽にご利用ください。



総合患者支援部スタッフ

# 世界患者安全の日（9月17日）の取り組み

医療の質・安全管理部



オレンジ色にライトアップされた病院正面玄関

【世界患者安全の日（World Patient Safety day）】は、患者安全<sup>1</sup>を推進するための国際的な理解および人々の意識や感心を高めていくための加盟国間の連携や行動の取り組みを目的として、2019年の世界保健機関（WHO）総会で制定されました。

2019年9月17日には、「患者安全のために声を上げよう Speak up for Patient Safety」をスローガンに、記念すべき最初の取り組みが行われ、世界82カ国が参加して様々なキャンペーンが繰り広げられました。当院もWHOの呼びかけに呼応して第1回のキャンペーンに参加し、来院患者さんとご家族の皆様に対して、患者安全の推進に向けた啓蒙活動を行いました。

2020年9月17日、第2回目となる【世界患者安全の日】のテーマは「医療者の安全：患者安全のための優先事項 Health Worker Safety: A Priority for Patient Safety」でした。新型コロナウイルス感染症が世界的にまん延する中、最前線に立ち続ける医療者の安全に焦点を当てた内容は、国内での感染まん延初期から山梨県の先頭に立つ気概で新型コロナウイルス感染症の診療等に取り組んできた当院の姿とも重なります。そこで本年は、【世界患者安全の日】のテーマカラーであるオレンジ色のエコバッグに、医療の質・安全管理部のマスコットキャラクターであるカルガモをプリントし、

当院の新型コロナに関する取り組みを紹介する冊子を入れて、来院患者やご家族の皆様にご配布しました。イラストは、本学アドミッションセンターの鈴木律子先生が担当しました。キャンペーン活動は、島田眞路学長や武田正之病院長も参加し、感染防止に配慮しながらも盛大に行われ、NHKやYBS、UTYのニュース報道を通じて山梨県全体にお伝えできました。

医療の安全は、医療者の取り組みに加えて、患者さんに参加していただくことがとても重要です。特に、本人確認のために、名前と誕生日を名乗っていただきますよう、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（1：日本では、「医療安全」と呼ばれていますが、世界的には、「患者安全」という用語が用いられています。）



## コロナ禍での安心できる療養環境について

感染制御部

新型コロナウイルスが原因不明の肺炎として初めて報告されたのは、昨年12月でした。その後、この1年の間、全世界で6,039万人が罹患し、142万人が死亡するなど甚大な被害が出ています。この世界的な感染災害によって命を落とされた多くの患者さんとご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

この新型コロナウイルスは大変恐ろしいウイルスで、症状が現れない感染者も多く報告されています。当院では、入院される患者さんが、安心して療養できる環境を確保する取り組みとして、緊急入院を含む全入院患者さんを対象にPCR検査を行っています。また、病院入り口でのマスク・体温確認、手指消毒のほか、可能な箇所は換気を行い感染対策を実施しております。

コロナ禍において、患者のみなさんには、多くの制約がありますが、安心な療養環境を維持するため、ご協力をお願いいたします。

また、マスクの着用、手洗い・手指消毒、換気は、感染対策の基本となり、非常に有効な方法となりますので、ご家庭でも是非実践してください。

### 正しいマスクの着用



### 窓やドアを開け こまめに換気を!



### ①手洗い

### 正しい手の洗い方

手洗いの前に  
・爪は短く切っておきましょう  
・時計や指輪は外しておきましょう



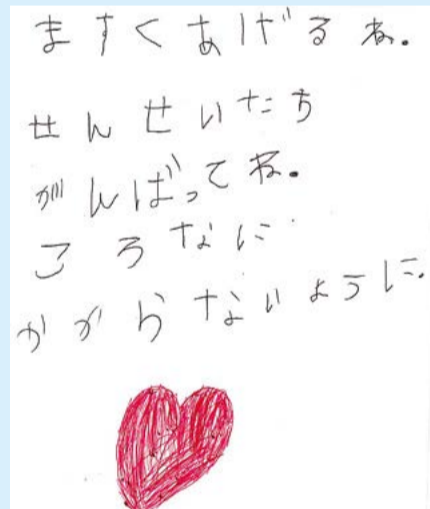
石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

## 多大なるご支援ありがとうございます。

新型コロナウイルスが日本でも感染拡大しはじめたころ、医療用マスクなどが不足し始めましたが、多くの団体や個人の方からマスク等の支援をいただきました。また、「新型コロナウイルス感染症緊急対策基金」を立ち上げ、多大なるご寄付をいただいております。

いただいたご支援は、新型コロナウイルス感染対策に活用させていただいております。皆様の支援、誠に感謝申し上げます。紙面を借りお礼申し上げます。

当院では引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に努めて、皆様に医療を提供してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



医療従事者に対する応援のメッセージもいただき、感染症対策に従事する職員の励みとなっております。